

連携通信

平成25年3月11日発行
平成24年第8号
中高連携連絡協議会

愛川手伝い隊の一年間

愛川高校の連携募集入学生は、「愛川手伝い隊」として、さまざまな事業に参加協力しています。メンバーの何人かに1年間の感想を聞いてみました。

答えてくれた先輩

矢崎 桃子さん (愛川中原中学出身)

岸上 襟さん (愛川中学出身)

高橋 唯斗くん (愛川東中学出身)

「愛川手伝い隊」として参加した行事は何ですか？

・中津川の水质調査です。

・私も中津川の水质調査です。

「カイコは地球を救う」と学校説明会に参加しました。

参加して初めての感想を教えてください。

・水质調査はいい天気で川の水が気持ちよかったです。ただ虫がなかなか見つからず苦労しました。

・私が中学生の時の連携事業でも水质調査に参加しましたが、その時は天候が悪く、他の川で実施しました。その川は浅かったので、今回中津川という大きな川で水の汚れや川に住む虫などを詳しく調べることができてよかったです。

「カイコは地球を救う」は中学生の時に参加していたので、自信を持って中学生を案内できました。シルクが入ったパンやお茶がおいしかったです。学校説明会では中学生からの質問を受けましたが、けっこう具体的な質問が出てちょっと焦りました。

これから入学してくる後輩へのメッセージをお願いします。

・まわりは気にせず、強気で頑張れ！

・連携募集を希望する人も、そうでない人も、せっかくなのでたくさん連携事業に参加してほしいです。

・愛川高校には、もしかしたらあまり

いいイメージを持っていないかもしれません。校なので、ぜひ来てほしいです。

i-Basicの魅力を語り

愛川高校の特色ある授業の一つにi-Basicがあります。これは基礎・基本の定着を図るため、愛川高校が独自に設定している教科で、週4回、国社数理英の5教科を、ドリル形式のプリントを使って反復学習するものです。

連携事業の一環として、愛川3中学の先生方にもこの一年間i-Basicにご参加いただきました。その感想をご紹介します。

愛川東中学校 門田 佳葉子先生

休み時間の様子、服装などが中学校とあまりに違い、初めは驚きを隠せませんでした。チャイム着席できていない生徒も目につきました。

しかし、いざ始まると、グッと集中し、目標を達成しようとしていました。メリハリ、はじめという点ではできていたと思います。自ら質問してくる生徒もいました。

教室環境、チャイム着席、こんな当たり前のことから取り組めると良いとおもいました。

愛川中原中学校 内堀 義弘先生

1年間i-Basicをお手伝いさせていた点で、高校一年生で行う基礎学力の復習の重要性を再認識しました。授業で使われるプリントも良く作られており、生徒たちも50分集中し学習しようとする姿勢が良く見られた授業でした。

私としては、プリントの作成など参考となるものが多かったです。

愛川中学校 安田 由美子先生

1年間、愛川高校との中高連携事業の1つである、i-Basicの授業に参加させていただく機会に恵まれ、大変興味深く取り組ませていただきました。

学ぶ楽しさを知り、学習姿勢を確立し、基礎学力の定着をめざして行われているこの事業に、実際にT・Tとして授業に入り、生徒が真剣に学習に取り組み姿勢を見てみると、基礎基本の大切さがよくわかりました。それと同時に、中学校の段階で身につけさせようとするのを工夫していき、1年生の教室に入ると、愛川中学校の卒業生だけでなく、どの生徒も元気に挨拶をしてくれたり、話しかけてくれたりして、生き生きと学校生活を過ごしていることが伝わってきました。

秋のバードウォッチング

11月23日(金)に、本年度最後の中高連携事業である「秋のバードウォッチング」が行われ、中学生43名、愛川高校生3名が参加しました。当日はあいにくの雨で野外での観察ができなため、愛川高校の会議室で講義と学習を行いました。

今回の野外観察は自然が豊かです。多くの種類の野鳥が生息しています。そこで今回のバードウォッチングに先ず、豊かな自然の一部を紹介したいと思います。

ラヒワ、ヒヨドリ、カワセミ、マガモ、ジョウビタキ、セグロセキレイ、アオサギ、カイツブリ、カワウ、オシドリ、ウカサギ、ダイサギ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ガビチョウ、カワウ、オシドリ、カイツブリ、メジロ、キジバト、エナガ、ハクセキレイ、ホオジロ、カワセミ、ウグイス、カケスを観察できました。

この大きな白い線が入っているのは、目印としてつけられています。観察の際には、必ずこの線を目印に観察してください。また、観察の際は、必ずこの線を目印に観察してください。また、観察の際は、必ずこの線を目印に観察してください。



最近、鮮やかな画像で鳥の生態を観察できるのが、生徒が一斉に学習するのにはとても便利です。バードウォッチングでは、一瞬の鳥の動作を全員が見逃さずに観察することを、たとえ四、五人の少人数であったとしてもきわめてまれなことだからです。

今回は、実際の観察こそできなかったものの、鳥に関する基礎的な知識や観察のために必要な技能を身につけるうえで、有効な一日になったと思います。

愛川町小中学校授業 参観報告

愛川町の小中学校と愛川高校との間では、さまざまな交流が行われています。ここでは、愛川高校の教員が小中学校の授業を参観して感じたことを、お伝えします。

愛川町立高峰小学校(英語活動6年生) 愛川高等学校 英語科 柳川 由香里

A L Tと学級担任の先生のT Tによる授業で、ほとんど日本語を使わないで授業が行われていました。挨拶↓歌↓導入↓ゲームという流れで、時間の半分はゲーム形式だったため、どの児童も積極的に楽しそうに参加していました。授業のあと、小中学校の先生たちとの協議の中で、小学校から中学校に上がった段階で、音から文字に移行することが難しいという話題が出ました。高校生にとっても『読む力』『書く力』をどのようにつけていくかが大きな課題です。また高校生にとっては英語学習に対するモチベーションを保つことも重要な課題であることを、小学校の授業の様子を見て改めて感じさせられました。

愛川町立愛川東中学校(英語3年生) 愛川高等学校 国語科 中西 公子

T Tによるオールイングリッシュの授業を参観しました。班ごとに着席し、その中でペアを作って対話(京都の道案内)を練習するという内容でした。1年生の生徒が10人ほど見学していました。(見学の態度も非常に真面目で熱心でした。)

ほとんどの生徒が積極的に授業に参加していました。授業後の研究協議には生徒も参加してくれましたが、オールイングリッシュでも8割の生徒が分かっていることには驚きました。

愛川町立愛川中学校(社会3年生) 愛川高等学校 社会科 藤田 俊光

公民的分野「現代社会をとらえる見方や考え方の」の「対立と合意」の授業を参観しました。身近な対立関係を素材に、双方の主張を班ごとに考え、発表するという内容で、世の中には対立が必ず生じ、その解決の手段として法律や話し合いが持たれるという結論を生徒とともに考えていく授業でした。

落ち着いた雰囲気の中で授業が進められており、授業者の先生が全員が参加できるように気を配って声かけをしておられました。

中学校ではすべての先生方がすべての生徒をよく見ている(知ろうとしている)ことが印象的でした。高校生たちはこの教育を受けて進学して行くこと、発達段階を踏まえてきめ細かく指導していくことの大切さなどを再認識でき、有意義な経験ができました。

中高連携に参加した1年

愛川高等学校 英語科 北見 朋子

今年度、愛川町の2中学校で週に2回は愛川東中学校で岩崎先生、関原先生と、木曜日には愛川中原中学校で森住先生とのティームティーム形式で合計8クラスの生徒と一緒に学ぶことができました。

「中学校と高等学校の円滑な接続」と「教科指導力を向上させる」ということを目的とした愛川町の中高連携事業ですが、教員2年目の新米教師として、中学校の先生方と一緒に授業を行う中で、毎回たくさんさんのことを勉強させていただきました。

中学校の一斉授業では、塾や家庭学習の量の差が生徒によって大きく異なるため、高校以上にクラスの中の学力や理解度に違いがあるように感じられます。

しかしどの先生も生徒全員が理解でき、さまざまな工夫をされていました。具体的には、毎回の授業で全員が発言できるようにワークの活用など、生徒が自信を持って授業に参加し、楽しいと思ってもらえるような授業づくりをしていた様子が見えました。

教科外指導においては、生徒と学校との接し方や関わり方が非常に印象的でした。例えば委員会活動や部活動、体育祭や合唱などの行事において、「全員が参加しななければ意味がない」という強いメッセージがあり、全ての生徒が責任感や自発性を持って取り組む姿に目を見張るものがありました。

中学校・高校の両方で授業を行ったこの1年間は、改めて充実した学ぶこと、多いものだったと思います。1年間見て、感じてきたことの中で、1つでも多くのことをこれからの愛川高校での教育に取り入れていけたらと思います。関係してくださった愛川東中学校及び愛川中原中学校の先生方、本当にありがとうございます。



愛川東中学校から愛川高校へ

愛川高等学校 数学科 遠藤 利昭

今年度、愛川東中学校から愛川高等学校へと戻りました。私が連携に伴う人事交流として、愛川高校から愛川東中学校へ赴任した当時、この日が来るのが想像できませんでした。いろいろな方々の協力なくしてはあり得ません。特に愛川東中学校の先生方をはじめとすると、多くの中学校・高校の先生方に支えられてここまで来しました。本当に感謝しています。

30期生(1年生)の担任をしています。以前愛川高校で担任として関わっていた

期生と比べると、素直な生徒が多く、また連携生の活躍なども送っています。ただ、充実した日々を送っています。ただ、素直な生徒が多い分、24期生に比べ自主的に何かをしようとする意欲に欠ける一面もあります。それを感じてしまっていることが、生徒の「愛川高校はつまらない」というセリフです。クラスの先頭に立って何かをやらうとする志のある生徒が残念ながら少なく感じています。

30期生では10月に学年球技大会を実施しましたが、生徒による企画・運営という目標には届きませんでした。それでも、当日はほとんどの生徒が活動し、楽しんでいました。また、3月18日(月)には、学年合唱コンクールも企画されています。生徒の力で何とか企画・運営させるべく、今年度愛川東中学校から愛川高校に赴任した廣瀬先生を中心として努力しています。クラスにより温度差があり、なかなか盛り上がり欠けていたり、なかなか私を感じていないことは、行事を行うにしても、当日だけ楽しもうとする生徒が多く、その企画・運営には消極的であるということなのです。

そして、さらにつまらない気持ちにさせているのが、頭髪・服装指導にあるようです。生徒の意識として、頭髪・服装指導を「させられている」感が強くあります。この生徒の気持ちから「させられている」から「している」に変わる日が来るものだと信じています。愛川高校の先生方は、再登校指導を毎日実施し、厳しい中にも温かい指導をしています。生徒の意識がまだまだ受け身なので、生徒の残念ながら伝わっていないのかもしれないと、私も思います。

まとまりませんが、最後に、愛川高校が愛川3中学校の生徒からの憧れの高校になれるよう小中高のつながりを意識し、さらに愛川高校から次の進路へ自信を持って羽ばたいていけるように、生徒を指導していきたいと思っています。

